

① テーマ

精神障害がある人の入院期間を長期化させないための必要な支援

② 地域の現状と課題

退院を阻害していると思われる要因は大きく4点

① 病院と地域とのギャップ（視点・評価軸・認識の相違）

- ・本人の病状の評価
- ・本人の心身の健康を維持するための生活する力の評価
- ・生活する力を評価するための実生活の体験の機会の不足
- ・そもそも本人が入院期間の長期化により退院意欲が擦り減ってしまう

③ 役割分担が不十分

- ・病院スタッフ、地域支援関係者など様々な方が関わり、安心して生活するための役割分担
- ・安定した生活（入院させない）が継続する支援、体調が悪化した時の支援（病院の受け入れ）

② 社会資源の不足

- ・体験の場、住まいの場、日中の居場所の選択肢が乏しい
- ・慢性化した症状、継続した治療を考えると、病院とのつながりが強いがあまり、治療やD C、訪問看護の範囲など、移動手段を考えると、選択肢が限られる
- ・地域移行支援を担当する相談支援事業所、相談支援専門員が限られる、高い人権意識を持ち、ていねいな関わり、業務量、マインド、地域関係者との交渉する胆力

④ 入院中の処遇（権利擁護）

- ・面会制限、意思決定支援が不十分

③ 検討内容（必要な取組の方向性）

① 病院と地域とのギャップ （視点・評価軸・認識の相違）

視点・評価軸・認識の相違を話し合う（個別・会議・ツール）

② 社会資源の不足

実体験できる場、方法、体制づくり

③ 役割分担が不十分

当事者、ピアサポーターの力を活用した、個別の支援、研修会、
当事者の力を活用しやすくする

④ 入院中の処遇 （権利擁護）

権利擁護意識、相談スキルを高める研修

④ 来年度の取組方針

① 実態の調査

- ・上越地域の長期入院の実態について
- ・当事者活動の実態について

② 権利擁護意識の向上、相談スキルを高める研修等の検討

- ・当事者の力を活用した研修会
- ・地域移行支援に係るマインド、スキルの向上
- ・病院関係者及び地域支援者のネットワーク形成、価値観の共有

例) 夕映えの郷にて行われているピア活動紹介

- ① ピアグループ『4 夕』の活動
(主体的なカフェ、グループワーク運営)
- ② 当事者によるリカバリーストーリーの発表
(地域・学生・支援者・病院等)
- ③ 精神障害などの影響で長らく引きこもっている方等
への個別友愛訪問の実施

⑤ その他（開催経過）

月 日	内 容
7月22日（月）	第1回：課題の共有、今後の進め方
8月26日（月）	第2回：個別事例からの課題抽出
10月7日（月）	第3回：全体会からの意見共有、今後の方向性「ピアサポート活動」の現状について知る
10月29日（火）	現在のピアサポート活動についてヒヤリング(地活あぽあん、夕映え、上越相談支援ネットワーク)
12月9日（月）	第4回：「夕映えの郷で行われているピアサポート活動について」ゲストスピーカー